

旭岳ビジターセンター建て替えへ

来年5月オープン予定、大雪山国立公園の新たな顔

大雪山国立公園の表玄関、主峰 旭岳(標高2,291m)の温泉街に、環境省北海道地方環境事務所が新旭岳ビジターセンター(仮称)を建設することになりました。すでに建設着工に向けた除雪作業も終え、工事着手は6月予定。来年3月には完成予定で、町では早ければ来年のゴールデンウィーク開幕に合わせて開館準備を進めることにしています。

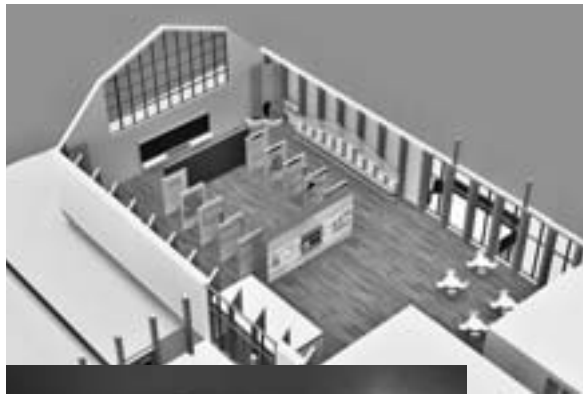
新ビジターセンターは、旭岳ロープウェイ山麓駅の手前にある旭岳温泉地区公共駐車場(無料)の用地を活用し、その奥の道有林内に建設します。

総事業費は約6億円。国立公園内の第2種特別地域であるため、環境に配慮して建築物の高

さは約10mに抑え、面積約750平方mの土地に木造モルタル造り平屋建て延べ約650平方mの山小屋風の外観です。

内部は壁面にカラマツ材を使用し、常駐スタッフを配置して町がセンターを運営。今まで同様、きめ細かな各種山岳情報、気象情報を観光客、登山者の皆さまに提供します。

広い中央展示ホールと各種講習会、研修



新ビジターセンター館内イラスト図

外観模型(建物左側の入り口は現公共駐車場とつながっています)

を開くためのレクチャールーム、職員事務スペースを配し、○国立公園と東川町の紹介○大雪山に生息する動植物の紹

介○登山道、旭岳温泉地区の自然探勝路情報揭示○山岳気象情報○旭岳ロープウェイ姿見の駅からの旭岳ライブ映像放映などを常時展示予定です。

大雪山観光の新たな中核機能

旭岳は、旭岳観光、大雪山系の山々へ繋がる主要登山ルート of 玄関口として親しまれていきます。ふもとの旭岳温泉地区(標高千100m地点)にある現ビジターセンターは、山岳情報、自然情報の提供、大雪山の自然学習、休憩施設として大きな役割を果たしてきました。

しかし1982(昭和57)年の建設以来、築35年が経過し、冬期間本州の標高3千メートル級山岳地帯に相当する厳しい自然にさらされているため雨漏りが激しく、老朽化が進んでいま

す。大雪山の四季と動植物を紹介している館内展示も含めて更新が求められていました。

近年はエコリズムの進捗とエコツアー、サイクリング、マウンテントレイル、カヤック(忠別湖)など、山岳レジャーも多種に広がり、現ビジターセンターで開いている自然観察講座ばかりでなく、今まで以上の各種山岳情報、自然情報の提供、自然学習の場としての機能が求められるようになってきました。新たな拠点施設の完成を受けて、町では環境省と協働してエコリズムの一層の推進を図るため、自然ガイドの人材育成などを今後とも進めることにしています。現ビジターセンターの建物は、今後活用を検討することになっています。